

第3回 鹿野川ダム水質検討会

平成20年4月18日

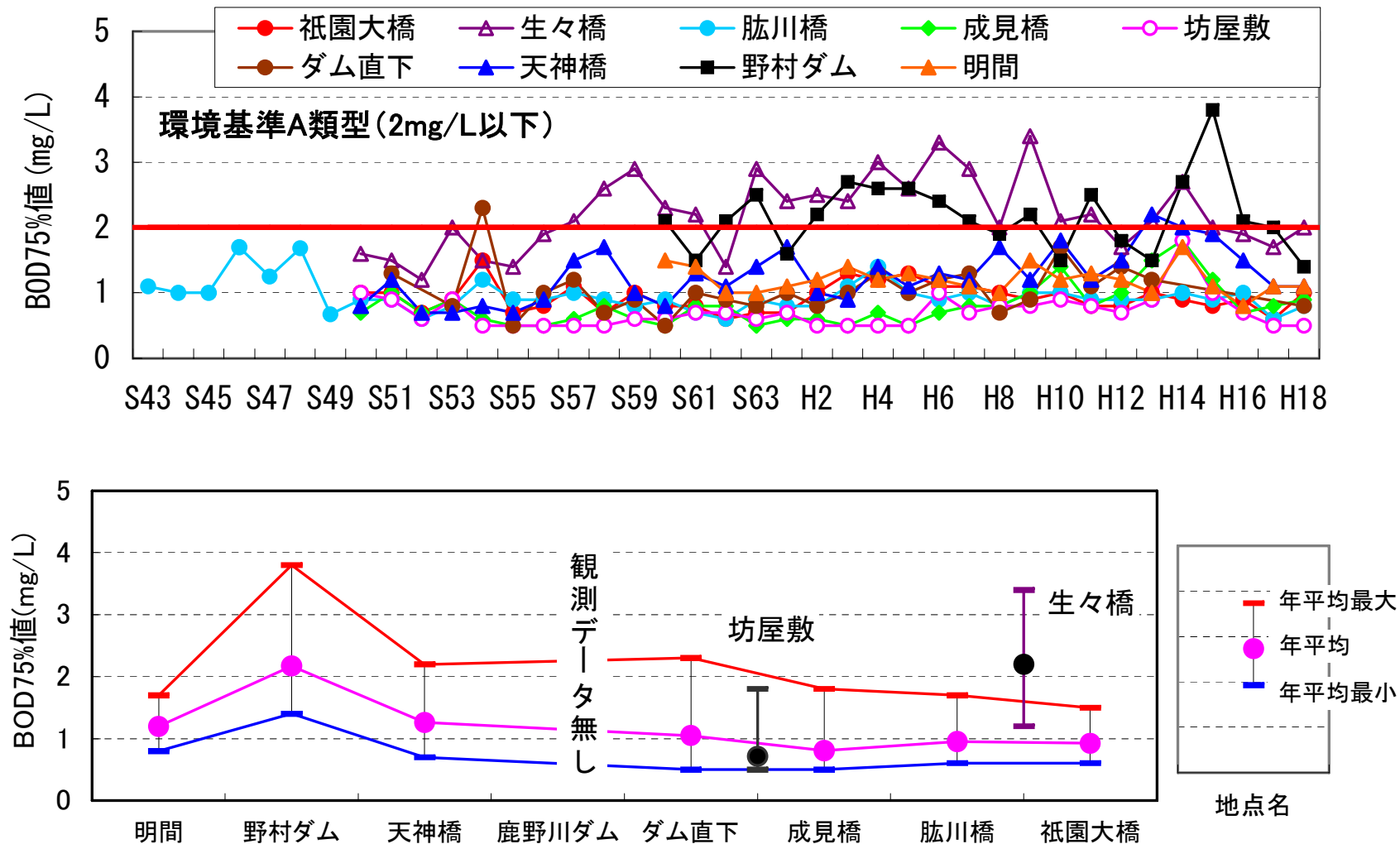
国土交通省
四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務所

【肱川主要地点の水質経年変化(調査位置図)】



＜肱川BOD75%値 経年変化・縦断変化＞

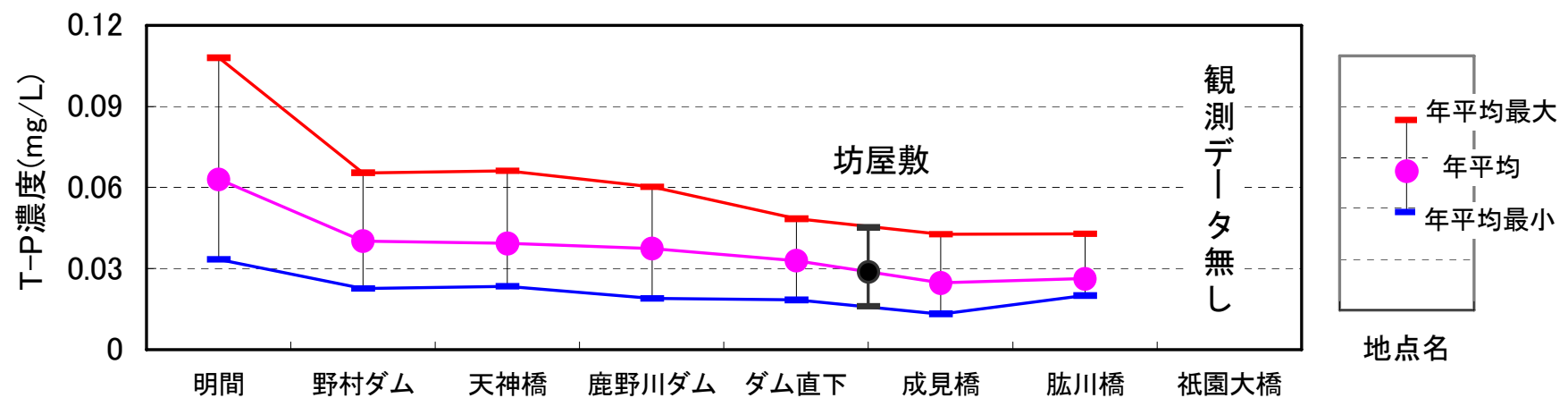
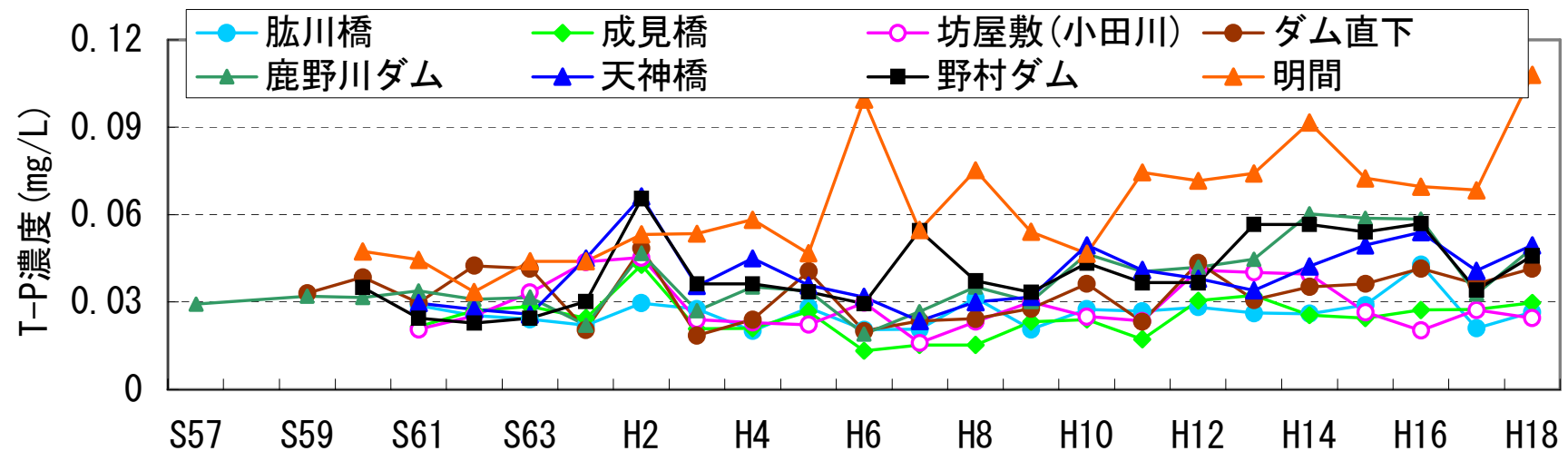
■ 肱川橋のBOD75%値は、昭和40年代後半から昭和50年代前半に高い時期があるが、その後は1mg/L程度でほぼ横這いである。



データ元; S50年以前水質年表、S50以降公共用水域水質データより

＜肱川T-P(全リン) 経年変化・縦断変化＞

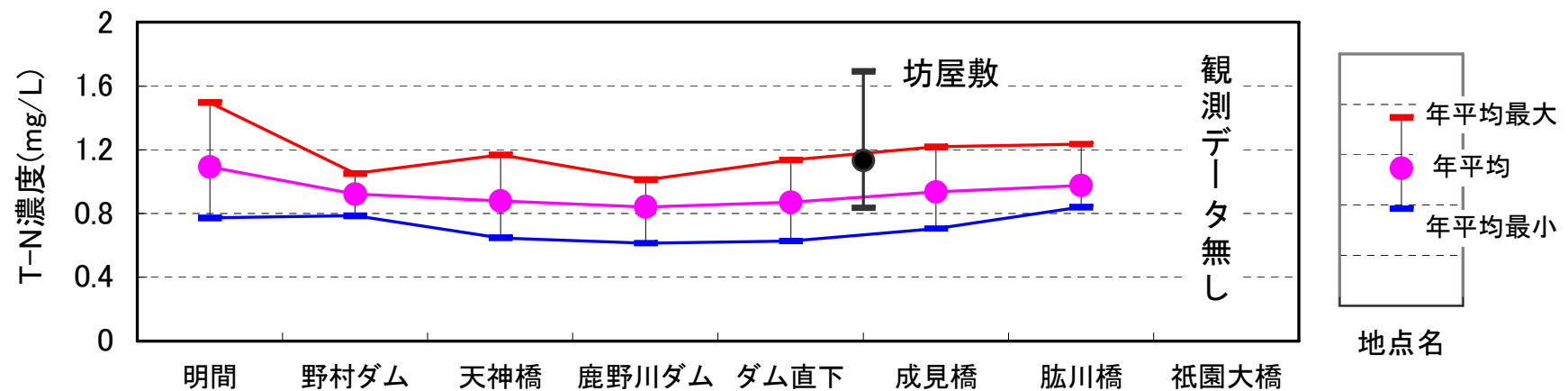
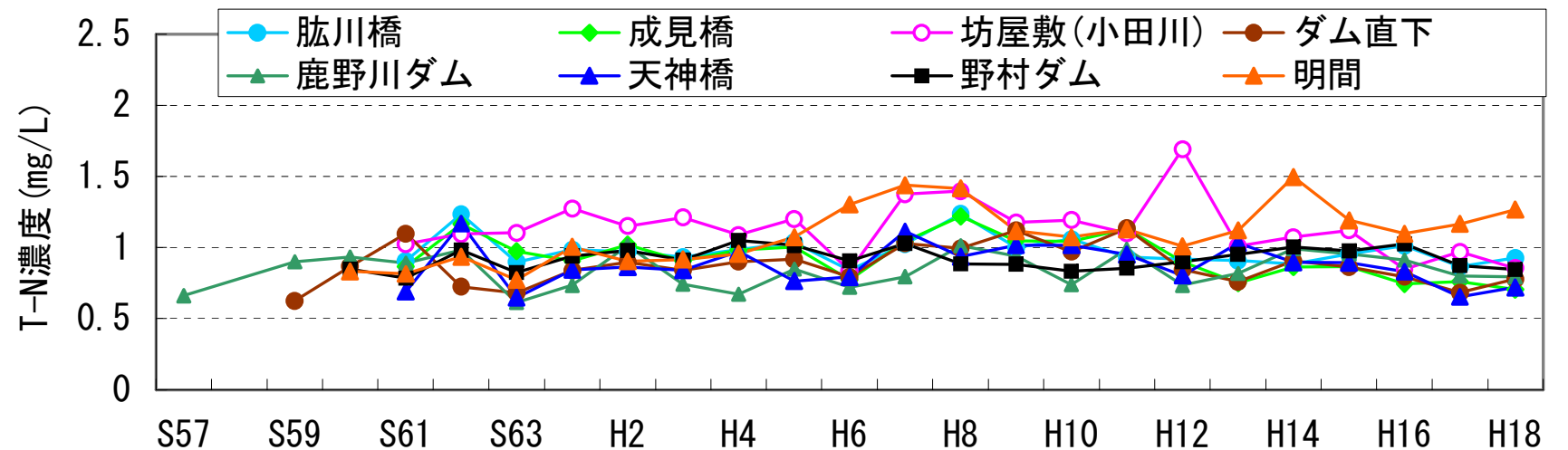
■T-Pは昭和50年代後半から横這いであるが、野村ダム上流の値が高い。近年は小田川(坊屋敷)と肱川下流の値は概ね同程度。



データ元; 公共用水域水質データより

＜肱川T-N(全窒素) 経年変化・縦断変化＞

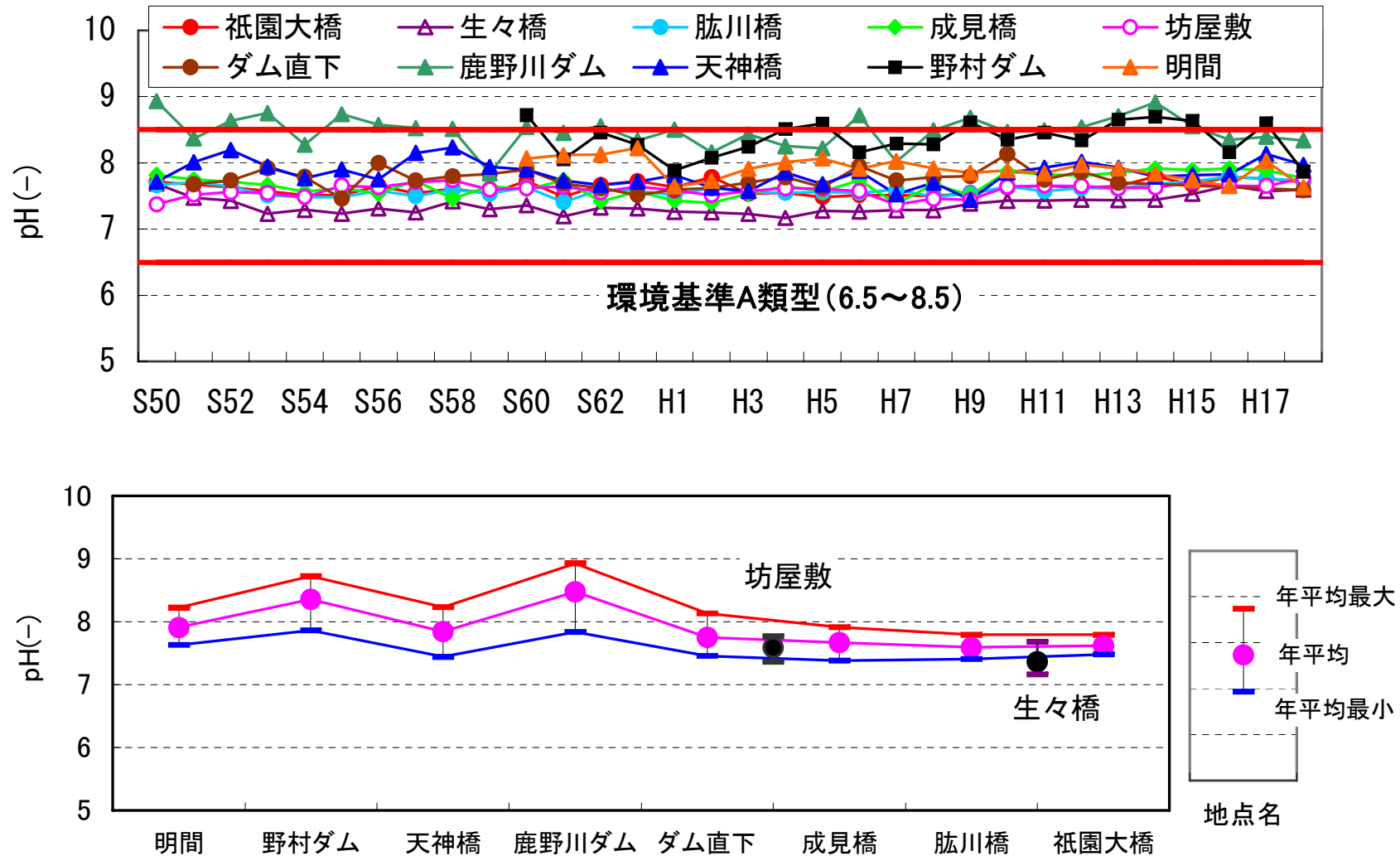
■T-Nは昭和50年代後半からほぼ横這いであるが、野村ダム上流(明間)及び小田川(坊屋敷)の値が高い。



データ元; 公共用水域水質データより

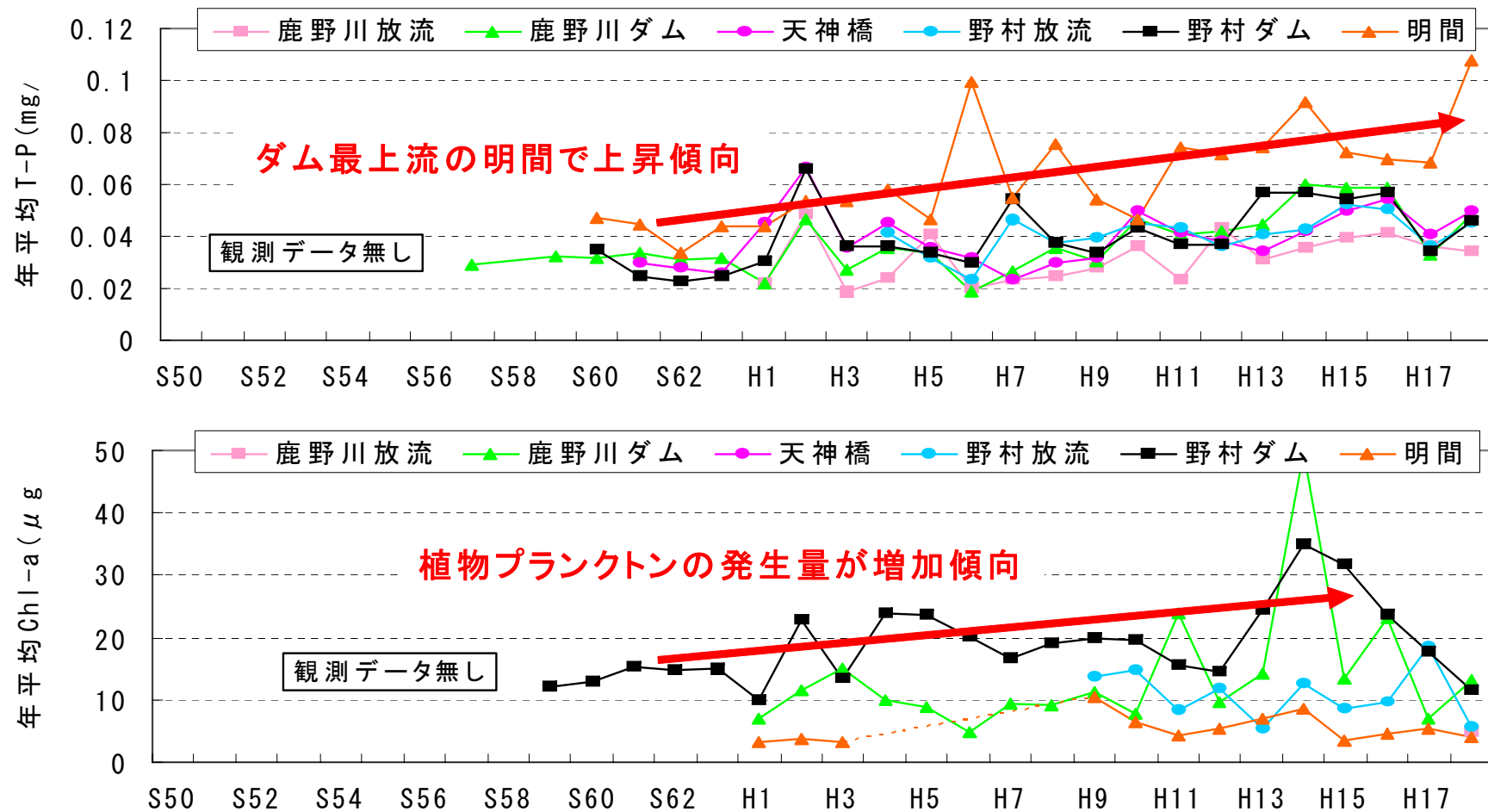
＜肱川pH 経年変化・縦断変化＞

■ pHは昭和50年代前半からほぼ横這いである。野村ダムと鹿野川ダムで高くなっているが、ダム直下から下流では低下傾向にある。



■近年における鹿野川ダム上流の明間、野村ダムの栄養塩濃度(T-P濃度)の上昇に伴い、鹿野川ダムの水質(クロロフィルa)も上昇するようになっている。

＜野村ダム・鹿野川ダムの年平均T-P、クロロフィルa推移＞



【肱川流域5市町(旧12市町村)の社会フレーム推移】

＜肱川流域旧12市町村＞



フレームとは；栄養塩など、流域から排出される度合いに影響を与える因子であり、流域内でのし尿処理形態別人口、家畜頭数、土地利用別面積などが該当する。

【肱川流域清流保全推進協議会の立ち上げ】

- 国、県、流域市町村が連携して設立された「肱川水系水環境検討会」(H12.10)を前身として、平成14年7月に設立された。
- 河川の浄化と河川環境の保全に取り組んでいる。

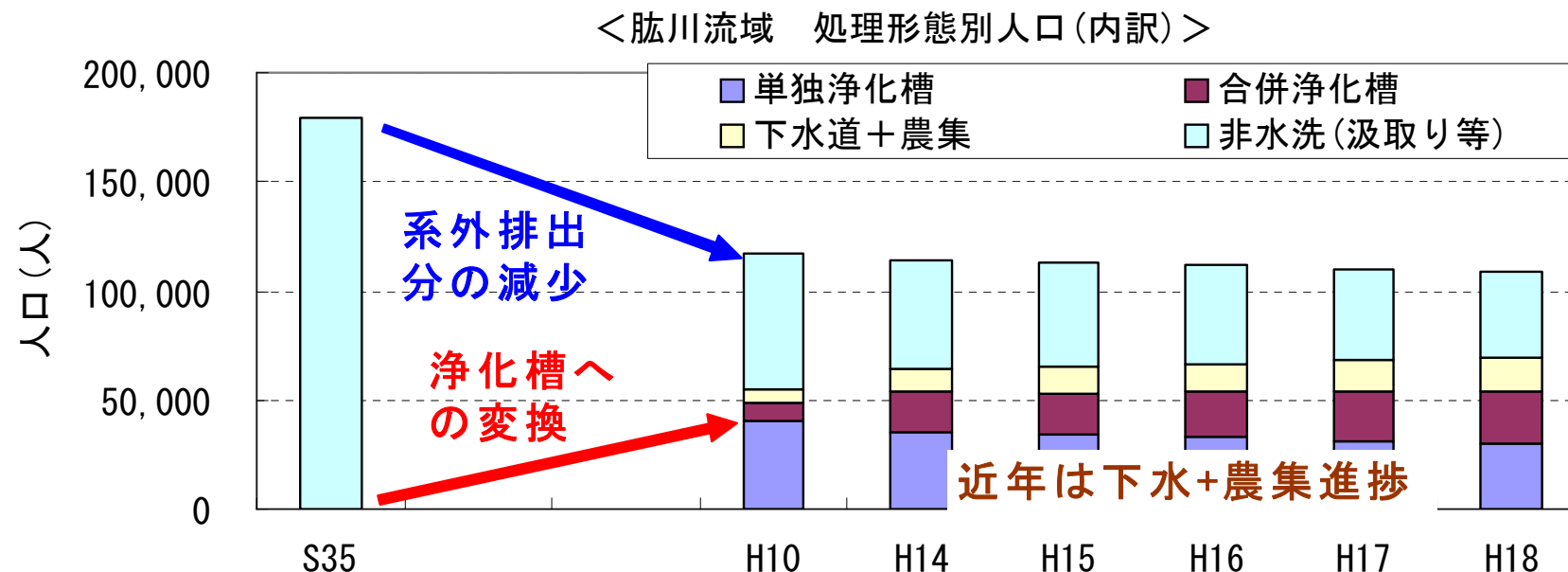
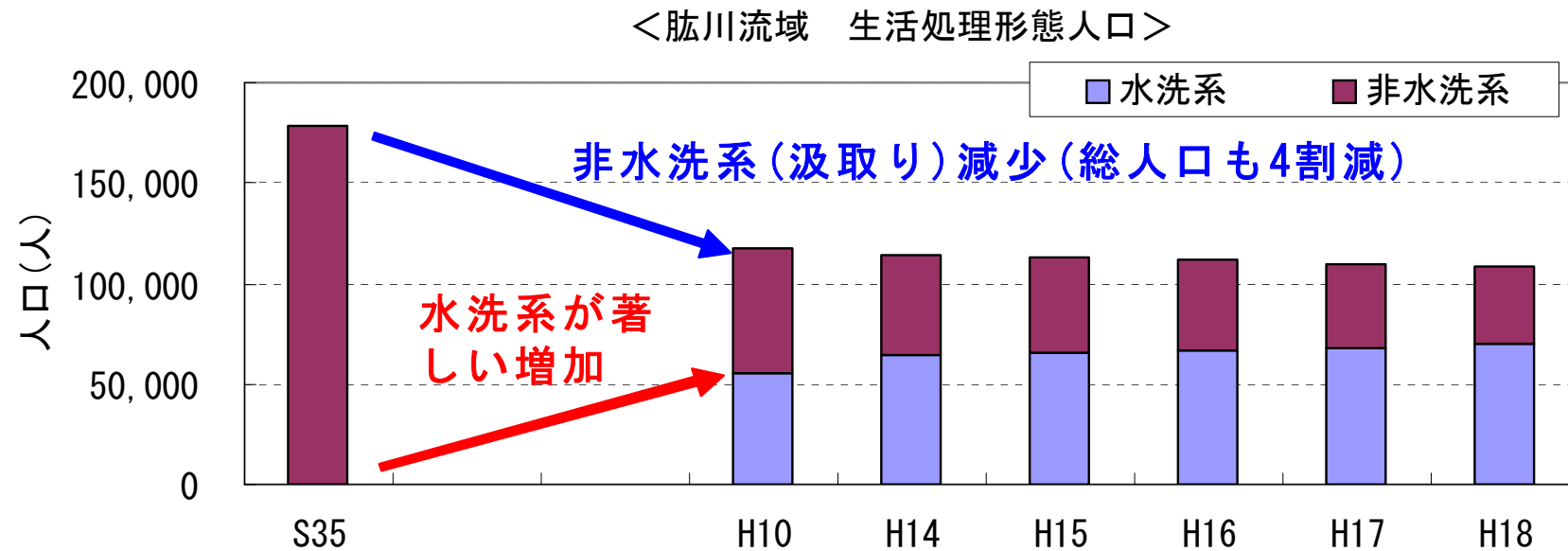


出典：肱川流域清流保全推進協議会パンフレットより

【協議会の目標】

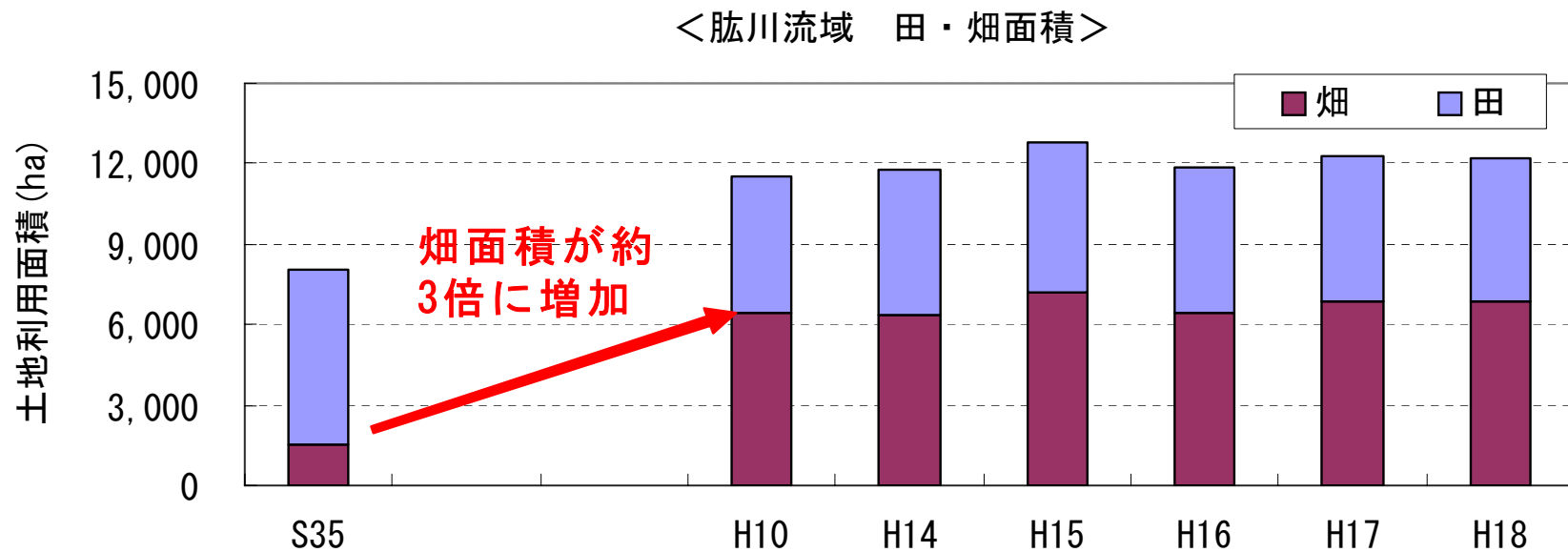
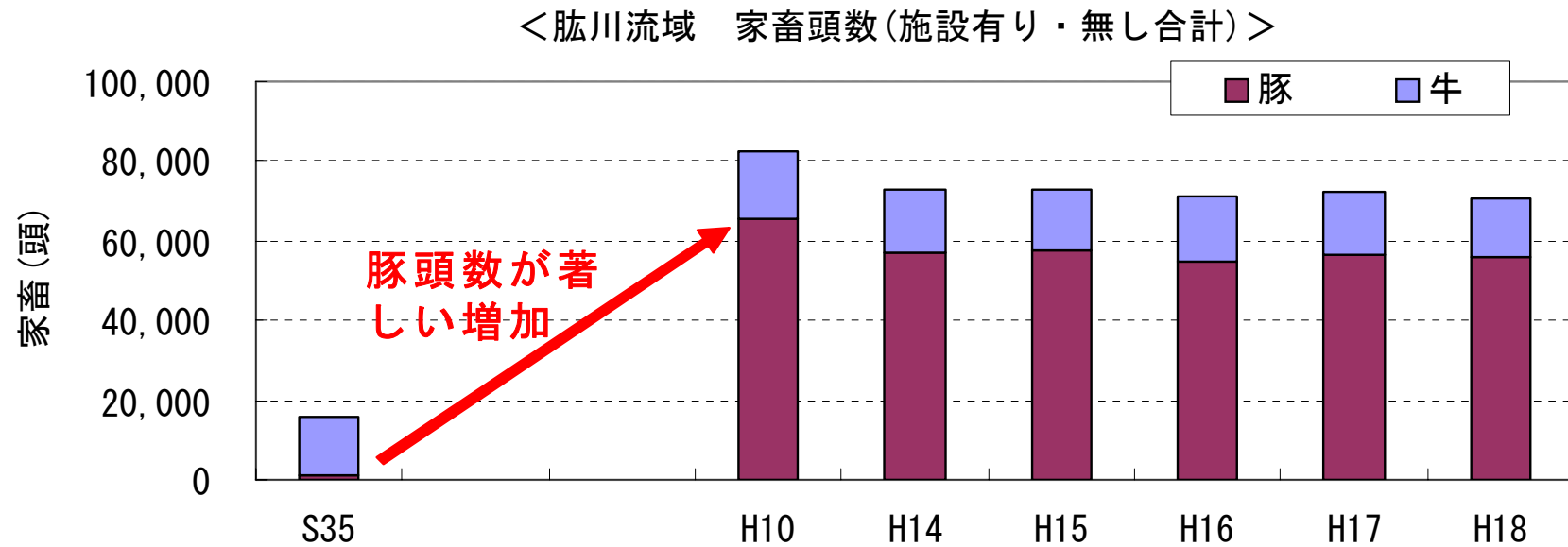
- 肱川のあるべき姿 「ごく自然に魚が見られ、河床がきれいで、橋の上からでも河床が見渡せた」昭和30年代の水環境を取り戻すことを目標とする。

【肱川流域 生活排水処理形態人口推移】



データ元; 肱川流域清流保全推進協議会(平成17年度末、平成18年度末現在)

【肱川流域 家畜頭数と田・畑面積推移】



データ元; 肱川流域清流保全推進協議会(平成17年度末、平成18年度末現在)